

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)  
論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between eating habits during adolescence and gestational diabetes: data from the Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

思春期の食生活と妊娠糖尿病との関連

ユニットセンター(UC)等名:高知ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Journal of Diabetes & Metabolic Disorders

年:2023

DOI: 10.1007/s40200-023-01294-2

筆頭著者名: 南 まりな

所属 UC 名: 高知ユニットセンター

目的:

妊娠前に健康的な食習慣を確立することは妊娠糖尿病(GDM)の予防に重要である。本研究では、10代の頃の「間食・夜食を減らす」という減量行動が、GDMのリスク低下と関連するかを検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査参加者のうち、正期産単胎児の母親 89,227 名(全体の 85.7%)を対象とした。妊娠中後期に回答する調査票の「10代のころ、体重を減らす目的で以下の項目を行ったことがありますか?」という質問に対し、「間食・夜食を減らす」という項目の回答を解析に用いた。GDMについては妊娠初期のカルテ記録により評価した。多重ロジスティック回帰モデルにより、10代の頃の「間食・夜食を減らす」減量行動との関連を評価した。

結果:

対象者のうち、合計 2,066 人(2.3%)が GDM であった。10代の頃の「間食・夜食を減らす」という減量行動は GDM 関連しており、妊娠前に標準体重または過体重であった対象者では、調整オッズ比はそれぞれ 0.79(95%信頼区間、0.70-0.89)および 0.82(95%信頼区間、0.69-0.98)であった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の限界として、10代の頃の食事行動を評価するために用いた質問票の妥当性は確認されていない点がある。質問は妊娠中に実施されたため、参加者は10代の頃の食習慣を正確に覚えていない可能性がある。また、間食の種類や、間食を減らすことがその後の体格に及ぼす影響も調査できていない。さらに、GDMの家族歴も調整することもできなかった。GDMと妊娠前および妊娠中の食事や間食の内容との関連については、さらなる研究を行う必要がある。しかしながら、本研究の結果から、GDMを発症する可能性のある妊娠女性の管理を改善するためには、早期に健康的な食習慣を確立し、妊娠中の不健康な間食習慣を是正することが重要であると考えられた。

結論:

「間食・夜食を減らす」という、10代の頃の減量行動が GDM 発症リスクの低下と関連することが示唆された。